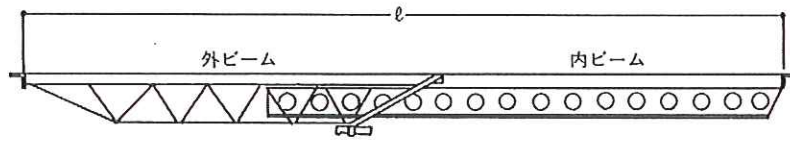


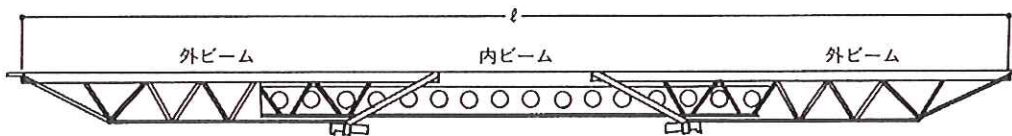
## 組合せ

2本つなぎ



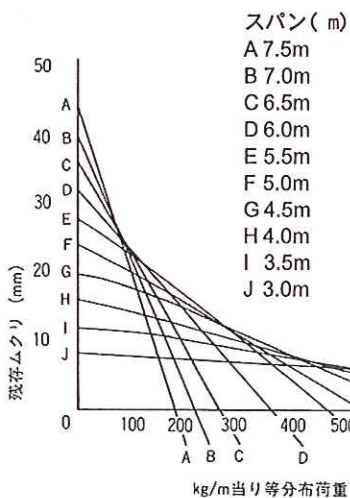
外ビーム	内ビーム	ℓ調整範囲	重量(kg)
L-5	P-5	1870~2830	31.1
	P-9	2885~4260	44.7
L-7	P-5	2360~3245	34.8
	P-9	2885~4675	48.4
L-9	P-5	3005~3865	40.0
	P-9	3005~5315	53.6

3本つなぎ



外ビーム	内ビーム	ℓ調整範囲	重量(kg)	
P-5	L-5	L-5	3720~4160	47.8
		L-7	4210~4575	51.5
		L-9	4850~5215	56.7
	L-7	L-5	4705~4985	55.2
		L-9	5345~5625	60.4
		L-9	5985~6270	65.6
P-9	L-5	L-5	3720~5585	61.4
		L-7	4210~6005	65.1
		L-9	4850~6645	70.3
	L-7	L-7	4705~6415	68.8
		L-9	5345~7055	74.4
		L-9	5985~7700	79.2

## 残存ムクリ表(スパン別荷重)



- ペコビームには固有のムクリがつけてありますから、これを組立てますとスパンに応じた所要のムクリができるようになっています。
- コンクリートスラブの荷重と型枠、根太の荷重(20kg/m<sup>2</sup>)を加算した荷重に対する残存ムクリを算出するムクリ図です。
- ムクリの調節はクサビで行ないます。

## 施工上の注意

- ハンマーでクサビを打ち込むだけで内ビーム、外ビームの締めつけが十分得られますので、無理な締めすぎをしないでください。
- 大引材を用いる場合、下図に示すように爪金具を架設してください。
- ペコビームの中間にパイプサポート等を架設しますとペコビーム自体が座屈しますので、架設しないでください。

